

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	児童発達支援センターエポック幼稚園(児童発達支援)			
○保護者評価実施期間	2026年1月6日 ～ 2026年2月6日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	61名	(回答者数)	23名
○従業者評価実施期間	2026年1月6日 ～ 2026年2月6日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数)	15名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月13日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達障害のあるお子さまへの支援を専門的かつ体系的に行っている。 TEACCHプログラム、PECS（絵カード交換式コミュニケーション）、JASPERといったエビデンスに基づく支援方法を取り入れ、子ども一人ひとりの特性に合わせたアプローチを実施している。 これらの専門的な療育を早期から行うことで、発達面でサポートが必要なお子さまに対し、成長を促すための適切な支援をいち早く提供できている。 その結果、子どもたちが日常生活やコミュニケーションの場面で自信を持ち、自分らしく過ごせる力を育むことにつながっている。	学びが家庭でも自然に般化できるよう、環境づくりと情報共有に力を入れている。 また、1週間の活動内容をあらかじめ決め、家庭と共有することで、子どもたちが安心して見通しを持って登園できるようにしている。 これらの取組みにより、園と家庭が同じ方向を向いて子どもたちの成長を支えられる環境づくりを大切にしている。	職員一人ひとりが専門的なスキルを高められるよう、継続的な学びの機会を設けている。音楽やサーキットなどの各部会では、専門的な視点を取り入れながら定期的に話し合いを行い、「エポックとしてどのように取り組むべきか」をテーマに自己研鑽を重ねている。また、こうした取り組みを保護者にも理解してもらえるよう、年に数回、活動のねらいを説明したり、参観の機会を設けている。 これらの取組みにより、園内での学びがより質の高いものとなるだけでなく、保護者と一緒に子どもたちの成長を支えていく体制づくりを進めている。
2			
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との連携や情報共有をさらに強化する必要があり、関係機関との協働体制をより充実させていくことが今後の課題となっている。	地域の方々に当センターの取り組みや役割を知ってもらう機会は十分とは言えず、地域資源としての存在をより発信していくことが今後の課題となっている。	今後は地域の保育園・幼稚園、学校、医療機関、行政との協働をより積極的に進め、子どもたちを多方面から支えるネットワークづくりを強化していく。
2			
3			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援センターエポック幼稚園 (児童発達支援)	公表日2026 年 2 月 13 日			
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		適切に配置されている	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		生活空間は個々に応じて構造化されている。各フロアは段差がなくバリアフリー化されている。各フロアがテーマカラーでまとめられており、わかりやすくなっている	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		共有スペースは、掃除のチェックリストを作るなどして、日々環境を整えて生活できるようにしている。	パーテーションを家具などに置き換え、自然な形で環境設定を心掛けていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		療育室（クラス）以外にも、個別学習ができ部屋や、クールダウンできる部屋が用意されており、個々の状況に応じて使用できる環境になっている。	1つの部屋を細かく構造化することで、療育スペースが小さくなってしまう。空き部屋の有効活用も検討していきたい。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		クラスミーティング、全体会議等を通して、アセスメントを常に行い、評価改善につなげている。	PDCAサイクルの意味と意義を、職員研修等で周知し、適切に回せるようにしていきたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		前年度の保護者の評価表を参考に、改善できるところはすぐに着手している。（例えば難訓練の実施内容がわからないという声に対して過案等で周知するようにした等）	こちらが周知できていると思っていても、実際には保護者に浸透していない項目がある。今後どのように周知するかが課題。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		クラスミーティングの他に、職員の面談を行い意見が発信できるようにしている。	業務改善提案シートの活用
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		今年は第三者評価を受け、評価結果を業務改善につなげている	第三者評価を受けて出た課題を重点的に取り組んでいく
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		様々な招へい研修の他、PECSのコンサルテーションを受けるなど、職員に学びの場を提供している。	今後も職員の専門性を高めていくためにも、様々な研修を企画運営していきたい。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムがHPIに出ている。	保護者への周知がまだまだなので、今後はどのように周知していくかが課題。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		日々の連絡ノートや個別相談を通じて、保護者のニーズを常に把握し、個別支援計画や療育に反映させている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		個別支援計画を作成する際は、児童発達支援管理者だけでなく、子どもに関わる職員が一緒に考えて、共通理解の下作成されている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別支援計画を元に、子どもの課題を職員間で共有し、活動につなげている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		今後Vineland－Ⅱなど標準化されたフォーマルアセスメントを行っていきたい。インフォーマルなアセスメントは常に行っている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		各係ミーティングやクラスミーティング等を通して、チームで意見を出し合い、プログラムを立てている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		曜日ごとに、音楽療法、サーキット、英語、習字、個別学習、乗馬など、様々な経験ができるようにプログラムされている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		こどもの今の状況に応じて、個と集団を大事にした取り組みがなされている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝のミーティングで、活動の内容やねらいについて確認し、職員間で役割分担している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後には、日誌を記入し、その中で活動に対する評価、改善を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		クラス日誌の中に、子どもの姿のみでなく、活動の評価、改善を記入したり、個別支援計画に関する特記事項を記入するスペースを作り、改善につながるようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		適時モニタリングを行い、達成している目標に関しては、赤字で次の目標を記入するようにしている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		担当者会議には、担任や担当が出席している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		ニーズがあれば、来園してもらったり、こちらが出向くなどして情報共有をしたり、相互理解を深めるようにしている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		就学に向けての移行支援として、学校側と情報交換したり、移行支援の資料を使って共通理解につなげるなどしている。	
	28	（28～30は、センターのみ回答）	○			
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		外部研修や招へい研修を行い、職員のスキル向上に努めている。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○		管理者が参加している。	
	31	（31は、事業所のみ回答）	○			
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		保育所に通っている子どももいるので、その場合は交流することもある。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日々の連絡ノートや個別相談を通じて、保護者のニーズを常に把握し、個別支援計画や療育に反映させている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		年間を通して、保護者向けの研修会を数回行っている。 託児がないため、保護者の参加が難しいことがあるので、そこが今後の課題。（LIVE 配信など）	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		重要事項説明は、保護者に管理者が説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		親のねがいという項目で、聞き取り（記入提出）をしてもらい、個別支援計画に反映させている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		年間2回個別支援計画の提示を行い、保護者の同意を得ている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		連絡ノート、対面、家庭訪問、電話相談など、保護者の悩みにタイムリーに対応している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		保護者会主催のフリースペース（座談会）に場所を提供したり、父親の会、保護者会の座談会で講演をするなどのサポートをおこなっている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		保護者からの相談について申し出があった時点で迅速に保護者の意向や対応するように努めている	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		園だより、週案などで行事や活動など発信している。今後はSNSも活用予定している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の取扱いについてはマニュアルがあり、留意している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		PECSを行っている。PECSの研修を保護者に行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		職員には読み合わせを行い会議等で実践し、家族には各マニュアルを公開し訓練を行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		入園や入級、進級時に確認し、定期的に状況を確認している。 変更があった時も、保護者とも密に情報を共有している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		指示書に基づき対応している。マニュアルの読み合わせも行っている	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		毎月、避難訓練を計画的に行い（火災、地震、不審者）、避難訓練マニュアルや搜索マニュアルなどに沿って安全管理を心掛けている	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		避難訓練は、実施内容を週刊スケジュールや園だよりを通して 家庭と共有し、広域避難場所等もマニュアルで知らせている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		事故やケガがあれば、事業所全体で回覧したり、話あい、再発防止に努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		全体会議等で、マニュアルを読み合わせるなどして全員で周知を図っている	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束についてのマニュアルを、全体で把握している。また保護者へも場合によっては同意書をお願いしている。	